

芸術領域：舞台表現学科ダンスコースのカリキュラム実践

三輪 亜希子 (尚美学園大学)

【はじめに】

筆者は、2015年に尚美学園大学に着任をし、その1年前における新設学科の構想段階から、舞台表現学科の立ち上げに関連したダンスコース全体のカリキュラム制作を担当した。そこで、筆者自身が大学時代に夢を見ていた“体験してみたい理想のカリキュラム”を念頭に、尚美学園大学の芸術情報系の学部という基盤となるコンセプトと連動させ、メディアミックスをテーマにコーディネートに臨んだ。現在も、作曲や映像演出、舞台制作の学生との共同製作をする実践科目を積極的に配置し、“ダンスをツールに創造力を拡張する場”を目指している。

【カリキュラムポリシー】

本学の芸術情報学部は、「新たな時代に対応した専門教育により可能性豊かな人間性を獲得する“芸術と科学の融合”をコンセプトとした専門教育を実現する」というカリキュラム・ポリシーと、「芸術を通して社会に貢献し得る専門性をもった人材を養成。様々な芸術表現と、メディアを駆使した表現を追求し、社会的に通用する幅広い分野にわたっての専門的能力を備えた人材を養成する」というディプロマ・ポリシーを有している。その上で、舞台表現学科は、演劇、ダンス、ミュージカル・オペラの3分野に応じたコース制に沿って科目群を編成し、それぞれの専門性に特化した教育が行われているが、芸術論や人間科学、プロデュース、舞台運営など、3コース共通の科目群も設けられている。

【舞台表現学科】

本学科は、尚美学園大学が長年にわたり音楽を軸として展開してきた芸術教育の領域を、演劇、

ダンス、ミュージカル・オペラに拡張し、いっそう多様な人材の育成を目的とする学科である。

ダンスコースにおいて核となるのは「舞踊表現基礎演習Ⅰ～Ⅳ」「舞踊表現演習Ⅰ・Ⅱ」といった科目であり、さらに、学生が幅広い素養を身につけられるように、3つのコース共通の科目として「芸術概論」「身体表現論」「劇場文化論」「人間科学論」などの「基礎科目」群、「舞台表現演習」「舞台応用芸術論」「舞台芸術教育論」「舞台芸術批評論」「舞台知的財産権概論」「プロデュース研究」「プロデュース演習」といった「展開科目」群、そして「舞台美術研究」「舞台照明研究」「舞台音響効果研究」「舞台衣装研究」をはじめとする、舞台の現場に直結する「舞台運営科目」群が設けられている。

【教授方法の工夫・開発と効果的な実施】

舞台表現学科では、芸術教育の「思考力」「コミュニケーション能力」育成の効果を重視し、プロの舞台人養成と就職活動に繋がる社会人基礎能力の獲得の双方の指導を織り込んでいる。2年次の上演科目はどのコースでも参加が可能な形態を取り、歌・演技・ダンスを横断的に学べる体制にある。3年次の上演科目と卒業研究では、パフォーマー参加の他に企画プロデュースや技術スタッフとしての役割での参加を可能としており、総合的な学習の機会を設けている。また、これら実技・演習系の授業科目においては、学生が主体的かつ協調性をもって課題に取り組んでいけるように成果発表や意見交換の場を大切にしている。さらに、舞台のオーディション参加希望者や指導者志望の学生に対してはアドバイザー制度を用いて個々人の能力を冷静に判断し、丁寧に対応している。

【ダンスコースのカリキュラムポリシー】

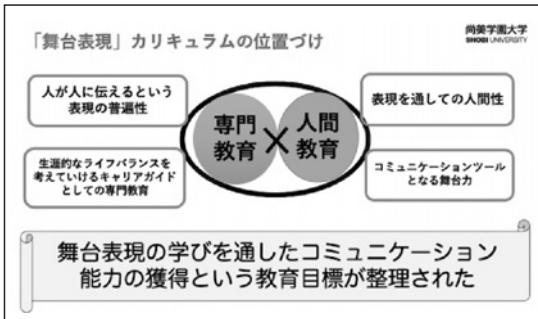


図1 「舞台表現」系カリキュラムの教育的な位置付け

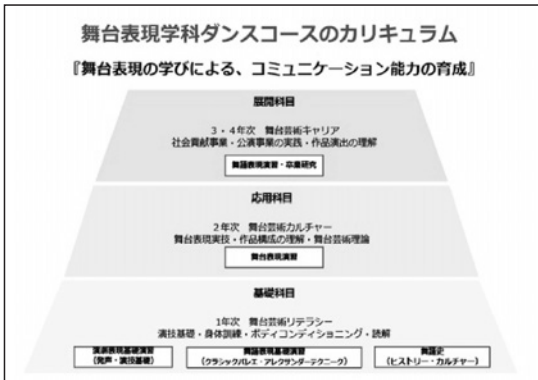


図2 尚美学園大学舞台表現学科のカリキュラム展開図

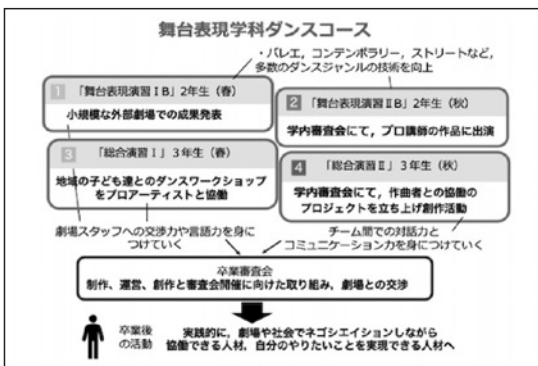


図3 ダンスコースのカリキュラムポリシー

※図1、2、3共に、三輪作成。

【授業事例① 舞台表現演習ⅠB】

対象：大学2年次以上

履修条件：ダンス経験を問わず、演劇、ダンス、ミュージカル・オペラの3コース共に自由に履修が可能

カリキュラム内容：課題を「振付」とし、振付・構成・演出を考案したのち、尚美学園大学プロデュース公演として外部劇場での上演を行う。

◎授業資料となる振付に関する知識

・「コレオグラフィ」とは「踊ること」と「書くこと」を意味するギリシア語が語源。踊りを記譜する(記述する)ことを意味する。

・「コレオグラフィ」はダンスを創作することそれ自体に向けられた言葉である。

作品創作全てを含めて使用する場合と、動きの振付のみについて使用する場合がある。

・コレオグラフ(構造)：①カノン(連続性 ずらし)元々は音楽用語であり、複数の声部が同じ旋律を異なる時点からそれぞれ開始して演奏する様式の曲を指す。②ユニゾン(同一性)元々は音楽用語であり、複数人でひとつの旋律を歌うことを指す。③セイムタイム(同時多発性)ソロや数名が同時に別々の動きをする構成を指す。④ソロ・デュオ・トリプル・カトルなど人数の組み合わせによる名称。

・コレオグラフ(種類)：コレオグラフ(振付)の種類には大きく、既存の動き(バレエやストリート、モダンといったダンスジャンルそれぞれのテクニックとして名称のあるもの)と、ジャンルに類別されない新規性のもつオリジナルの動きがある。創作をする時は全て新規性や独自性を目的とする必要はなく、バレエやストリートダンスのテクニックを利用し、動きの組み合わせを工夫することも振付である。

・フリースタイル：自らの感性や創造性、経験知により独自の動きを生成するケースを指す。経験知として豊富なダンスジャンルのテクニック(技術)

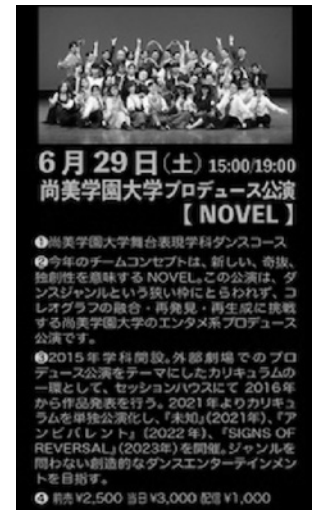


図4 上演に向けた公演チラシ

や音楽知識を保持しているといった知識量も関係し、また、ノンダンスに例を見るような日常動作や身体の構造への興味から動きの生成が先行することも考えられる。

◎2023年度 尚美学園大学プロデュース公演「SIGNS OF REVERSAL」 舞台写真



写真1 Hip-hop



写真2 Themepark dance

【授業事例② 総合演習 B (ダンス)】

対象：大学3年次以上

履修条件：ダンスコース生

カリキュラム内容：課題を「振付」とし、具体的に「音楽から始まる創作」および「思考から始まる創作」の2つの振付契機¹から発想したのち、学内のコンサートホールにて上演を実施。本番当日のテクニカルスタッフは、尚美学園大学芸術情報学部にて、音響・照明・舞台監督等の実践を積む学生である。



写真3 Contemporary dance

◎音楽から始まる創作のガイダンステキスト文
感情、音楽、ムーブメントなど、ダンスの創作を
いざ始める時に、発想のきっかけとなる振付契機¹
は豊富にあり、これまでもさまざまなダンスジャン
ルや様式として発展してきた。

こうした豊富な創造アイデアを源に持ち、長い歴史とともに進化を続けるダンスの創造活動に対して、尚美学園大学舞台表現学科のダンスコースでは、4つの創造的なテーマをかがげ、カリキュラムの課題として設計してきた。劇場空間への挑戦、そして、子供や障害のある人々とのダンス創作を通じた交流、様式への理解を目的としたレポーター、そしてこの度の音楽から始まる創作である。音楽とダンスは切っても切れない深い関係を持ち、多くのアーティストが楽曲からインスパイアされた振付を手がけてきた。おそらく、大学で専

モチベーション 例) ワクワクする作品を創りたい 例) ●●を舞踏作品にしたい	テーマ 例) 森林伐採 例) もう一つの地球	コンセプト 例) 人類が地球に与えた影響について考える 例) 高齢化社会の中で独自の生き方を見つけた	舞踊創作デザインシート
モチーフ 例) 両手を開く 例) 足踏み	アイデア 例) 舞台一面に赤布を敷き始める 例) 音楽で語る	マテリアル 例) 椅子 例) 透明紙100枚	
使用方法： <ul style="list-style-type: none"> ・どの要素をどこに書き出しても構いません。 ・どの特から書き出しても構いません。 ・要素は一つ以上記入した段階で動きの作成へ移行して構いません。 			

表5 舞踊創作デザインシート (三輪, 2021)

門的にダンスを学ぶ受講生の中にも、「音楽を聴いて振付を考える」という創造行為は経験のある学生が多くいるであろう。ここで、当たり前のように受け止めていた音楽と振付の関係性について改めてインスピレーション・着想の入り口を広げ、新たな挑戦の機会となることを目標に、「総合演習B(ダンス)」は「音楽から始まる創作」を課題とする。具体的に楽譜の理解、音楽のリズム、テンポ、グルーブの読解、戯曲等が関連する楽曲の際はあらすじや概念、台詞に対する身体化の発想を振付素材として推奨する。

尚美学園大学 2023 年度ダンスコース「総合演習B」創作作品「ロミオ and ジュリエット」(作品映像)：

<https://youtu.be/yCnqZXKkwCk?si=nFDRUr2xIPk6H7pL>

◎思考から始まる創作のガイダンステキスト文「総合演習B(ダンス)」の2つ目の課題として、「思考から始まる創作」を配置する。音楽を聴き込む作業とは全く異なるアプローチである。この課題は、振付のきっかけとなる6つのキーワードを配置した「舞踊創作デザインシート」(以下、デザインシート)を活用し、まずは頭の中に浮かんだワードをひたすら書き出すといった、言語のアウトプットが発端となっている。自分自身の頭

の中に潜在的に閃いた言葉を紙に書き出す行為によって、「見える化」し、その「見える化」された自分の言葉たちとインタラクション・対話することから、作品の核を見つけていくこととする。デザインシートを活用したコンセプトワークを元に、最終的にソロ創作を行い、履修者間の「soro relay」として上演する。

◎尚美学園大学芸術情報学部舞台表現学科ダンスパフォーマンス「総合演習」カリキュラムダイジェスト：

https://youtu.be/oTwi_5oHPUY

【おわりに】

履修者の取り組み方には、メロディーラインを歌いながらクリエーションしている姿や、作品の背景となる世界観について自然に飲み込みながら感情を追加していく振付への対話、バレエやジャズなど様式の美学を惜しみなく取り入れた振付と感情の趣くままに即興的に引き出した振付がごちゃ混ぜに発生する創造プロセスなどが垣間見えた。また、思考からの創造において、1つの作品創作に留まらず自身の振付 statement のような創り手としての普遍的なコンセプトを整理する機会となったとコメントする学生もいた。この自然発生的な音楽と身体の調和や創造的思考が彼らの今後の価値観として根付いていくことに期待をしたい。

〈参考文献〉

現代美術用語辞典

リーン・アン・ブレム他(2005) 舞踊創作の技法：身体運動の根源に触れる，新宿書房，東京。
 三輪亜希子他(2021) 創作プロセスに着目した「舞踊創作デザインシート」の作成と有用性の検証，大学体育スポーツ学研究第18巻，84-96。

注1：海野敏他(2017) 振付シミュレーションシステムを用いた現代舞踊の実演指導，人文科学とコンピュータシンポジウム。